

第 10 回 菊川水系流域委員会

議事要旨

日時：令和 2 年 12 月 1 日（火） 15:00～16:00

場所：WEB 会議

1. 開会

2. 挨拶（所長・委員長）

3. 議事

3.1 菊川水系流域委員会規約について

- ・特に意見なし

3.2 菊川水系河川整備計画の進捗状況

(1) 主な意見

- ・年平均水位について、下小笠川（川久保）の水位が経年的に低下傾向となっている理由は何か。
⇒（事務局）本川の河床洗掘に伴い、下小笠川（川久保）の水位も低下している状況である。
- ・過去の災害について、令和 2 年 7 月 28 日洪水による被害状況（床下浸水 14 戸）について具体的に説明いただきたい。
⇒（事務局）田園地帯ではなく菊川市街地で浸水被害が発生している。
- ・3 か年緊急対策の実施箇所と河川整備計画の実施箇所と関連はあるのか。緊急 3 か年対策の実施により河川整備計画が大きく進捗したという理解でよいか。
⇒（事務局）3 か年緊急対策の内容は河川整備計画と概ね一致している。
- ・BOD（年 75%値）について、牛淵川（鹿島橋）が他の地点より値が高い理由は何か。
⇒（事務局）牛淵川流域は田畑が多く、そこからの流出や河床勾配等の関係で一時的に数値が高くなる傾向がある。
- ・今後の整備計画の進捗について、堰や床止め等の横断構造物の改築に関して、今後の見通しはあるか。今後の見通しを持って計画的に進めていただきたい。
⇒（事務局）床止め等の横断構造物は許可構造物であり、今後、管理者と調整しながら撤去・対策を進めていく予定である。
- ・年平均水位について、特に、菊川（国安）の水位が近年上昇傾向にあり、その他の地点は低下傾向となっている。下流の菊川（国安）の水位が高くなっている要因は分かっているのか。
⇒（事務局）菊川（国安）は最下流の感潮区間であるため、潮位が上昇していることの影響を受けている可能性が高い。
- ・上流で河床低下が起きていることから河道改修により土砂が下流に運ばれていると思われる。一方、下流の感潮区間など縦断的に勾配が緩やかになり水位が高くなる（水深が深くなる）場所では上流から運ばれてきた土砂が堆積しやすい。土砂堆積が進むとそれが上

流側に徐々に伝播し水位が上がることも考えられるので、下流区間の河床状況を注意深く見ていく必要がある。

⇒（事務局）下流部の河床の堆積状況については観察しながら進めていきたいと考えている。

4. 話題提供

4.1 菊川流域治水協議会の設置報告

(1) 主な意見

- ・ため池を有効活用する際には老朽化状況を確認し、適切な対策を講じたうえで活用していく必要がある。

⇒（事務局）老朽化対策についてはため池の管理者と連携しながら事業を実施していく予定である。

- ・ため池等は農林水産省の管轄であるが、静岡県は土木事務所だけでなく農林部局の関係機関と連携していく必要がある。

⇒（事務局）現在、農林水産省関東農政局（西関東土地改良調査管理事務所）、静岡県（中遠農林事務所）に支援をいただいている。

4.2 気候変動を踏まえた菊川水系河川整備計画について

(1) 主な意見

- ・特に意見なし

5. その他

5.1 今後の委員会開催予定

(1) 主な意見

- ・特に意見なし

6. 閉会

7. 出席者リスト

■委員：6名

氏名	専門分野	所属・役職	備考
絹村 敏美	農業水利	静岡県土地改良事業団体連合会 参事	
洪澤 博幸	経済	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授	
末次 忠司	水工水理学	山梨大学大学院 総合研究部 工学域土木環境工学系 教授	委員長
溝口 敦子	河川工学	名城大学 理工学部 教授	
道林 克禎	水質	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授	
山田 辰美	環境	常葉大学 名誉教授	副委員長

※赤川委員（欠席）

■事務局（浜松河川国道事務所）

氏名	所属・役職	備考
吉田 敏章	浜松河川国道事務所 所長	
川口 一彦	浜松河川国道事務所 副所長	
船戸 総久	浜松河川国道事務所 調査課 調査課長	